



2013年 新春のご挨拶



阪神高速道路株式会社
建設事業本部 堺建設部長
立石 泰三

年頭にあたり、新春をお祝いし、皆様のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。

沿線地域の皆様には、平素から大和川線事業に格別のご支援、ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

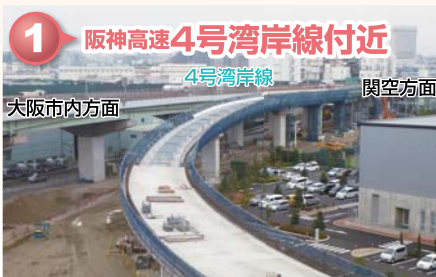
大和川線工事におきましては、昨年3月に発進した阪神高速シールドマシンも着実に掘進しており、その他校区の工事においても最盛期を迎えているところです。

また平成24年度末には三宅西ランプが、そして年末には三宝ランプの一部が開通予定と、大和川線にとって節目の年となっています。

今後も沿線地域および関係する皆様にご協力いただきながら、安全・安心のもとに工事を進めて参りますので、今後ともご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

大和川線NOW

6号大和川線工事の進み具合をお知らせしていきます!



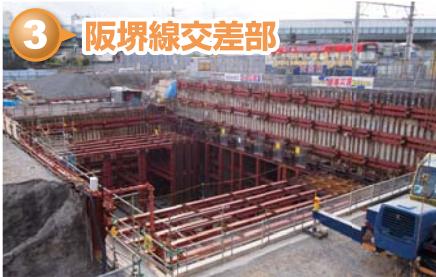
1 阪神高速4号湾岸線付近
4号湾岸線 関空方面
大阪市内方面

4号湾岸線と新設ランプがつながる箇所を工事しています。



2 南島下水ポンプ場付近

南島下水ポンプ場の西側を掘削しています。



3 阪堺線交差部

函体推進が完了し、阪堺線軌道の下にトンネルが入りました。



4 東浅香山町4丁付近

東側のエリアで覆工板を設置するために掘削をしています。

インフォメーション 6号大和川線の工事や、阪神高速道路全般についての情報をお知らせします!

平成24年度土木の日協賛行事現場見学会を開催しました

11月18日(日)、多数の応募の中から抽選で約400名のお客さまを招待し、大和川線建設現場(堺市堺区遠里小野町4丁)で見学会を行いました。この見学会は土木学会が制定する「土木の日」にちなんで、毎年当社の建設現場などで行っているものです。今年は建設中のシールドトンネル内の見学や土木技術の体験などを実施し、土木のおもしろさや技術の凄さを実感していただきました。

沿線地域の皆様をはじめ、当日お越しいただいた皆様、今回の見学会の開催にあたりご理解とご協力をいただきありがとうございました。



建設現場で近隣小学校を対象に出前講座を実施しました

子どもたちに大和川線事業をより身近に感じてもらうと、今年度は堺市立錦西小学校5年生(10月17日)と堺市立浅香山小学校5年生(11月30日)を建設中の現場にご招待しました。この取り組みは授業カリキュラムの一環として行っており、実際にシールドマシンが動いている様子や、多くの方が現場に携わって仕事をしているところなどを見学してもらえ、機会となっています。授業を終えて、児童から「めったにできない体験ができて良かった」といった感想を頂きました。



現場の写真やリアルタイム進捗情報など盛りだくさん!「6号大和川線」のWEBサイトをチェック!!

大和川線 検索

阪神高速 まち、川、緑とともに 大和川線

大和川線 ニュースレター

シールドトンネル掘削で発生する土の行方を追え!



阪神高速道路株式会社 建設事業本部 堺建設部

〒590-0075 堺市堺区南花田口町2-3-20(住友生命堺東ビル5階)
TEL:072-226-4801 FAX:072-226-4602

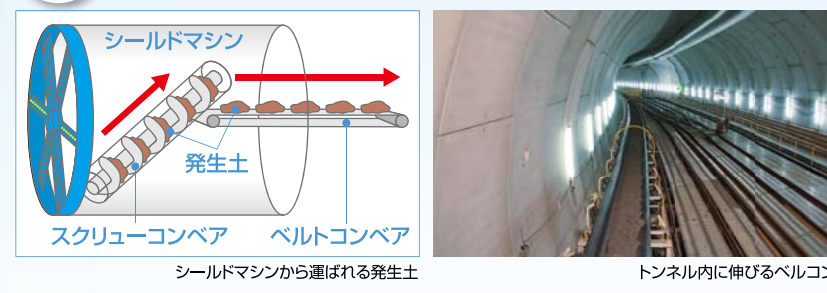
工事期間中は何かとご迷惑をおかけいたしますが、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

シールドトンネル掘削で発生する土の行方を追え!

これまで本紙ではシールドトンネルの特集として、巨大なシールドマシンの組み立てや土を掘る仕組み、工事進捗状況をお伝えしてきました。現在、阪神高速道路(株)施工区間のシールドマシンは地下を着実に掘り進めており、工事の最盛期を迎えています。今号では、日々掘進するマシンから排出される建設発生土(以下、発生土)に注目。その行方や運搬、処理方法などをご紹介します。



1 発生土排出・トンネル内運搬



シールドマシンが掘進して出た発生土は、マシン内のスクリーコンベアを通り、ベルトコンベア(以下、ベルコン)に乗せられ運ばれます。トンネル内に設置されたベルコンは、シールドマシンが掘進するたび継ぎ足されて、最終的には約4kmもの長さになります。

2 地上・土砂ピットへ運搬



トンネル内を運搬された発生土は、地下から垂直ベルコンを通して地上に上げられます。その後、地上ベルコンを通してコンクリートの壁に囲まれた土砂ピットに運ばれます。

3 土砂ピットに仮置き



土砂ピットに運ばれた発生土は、処理施設に運ばれるまでの間、現場に仮置きされます。この土砂ピットには約3,000m³の発生土を溜めておくことができます。

4 搬出

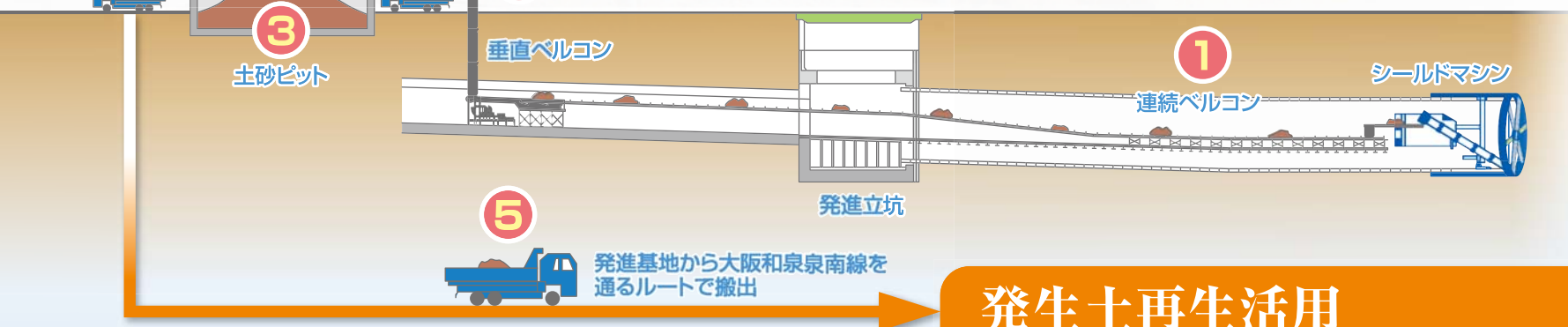


発生土を処理施設に運ぶため、土砂ピットからバックホウやクラムシェルを使ってトラックに積み込みます。この時、トラックの積載重量を確認し現場から搬出します。

5 発生土の処理



トラックに乗せられた発生土は、大阪市住之江区にある「発生土再生作業所」に搬入します。その後、埋め立てに適した土に改質され、新たな土地を造成するための土として活用されています。



発生土再生活用

発生土再生作業所がある第6貯木場は、大阪市港湾局により土地造成事業が進められています。ここに大和川線シールド工事で発生する土を搬入し、作業所内にある施設で環境にやさしく、埋め立てに適した土に改質した後、貯木場の埋め立て材として再利用しています。このように「道路事業」と「土地造成事業」という異なる公共事業を共同プロジェクトとして実施することで、資源の有効活用やコスト削減に努めています。



埋め立てまでの流れ



6号大和川線シールドトンネル



全長9.7kmの大和川線のうち、南海高野線西側から近鉄南大阪線東側にいたる約4km(ランプ部を除く)をシールドトンネル工法で施工。阪神高速道路(株)では、このうち南海高野線西側から常磐までの約2kmを施工する(シールドマシンは西行き、東行き各2kmの計4kmを掘進)。平成24年3月にシールドマシンが発進し、平成24年12月末時点で約600mを掘進。